

開講学科	建築学科	実務家科目				前橋工科大学 シラバス
		—				
科目名	ランドスケープ特論	標準対象年次	選択/必修	科目コード		
		4年次	選択	14106201		
担当教員	板垣 範彦	単位数	学期	曜日	時限	
		2単位	前期	月曜日	4時限	
授業の教育目的・目標	<p>目的：環境（特に人間の生活環境）の形成に携わる建設系専門技術者が理解しておくべきランドスケープの基礎的知識、及び計画・設計の方法論について解説する。</p> <p>目標：①都市とランドスケープとの関係を、その歴史の変遷を通じて学ぶことによって、現在の都市空間とランドスケープの位置付けを歴史的視点から理解できるようにする。</p> <p>②現代における日本の都市部のランドスケープデザインの考え方について、複数の代表的事例の現地調査を通じて理解を深める。</p> <p>③自然環境の保全、再生、創出の視点から、生態工学的な技術を含むランドスケープ分野の役割を理解する。</p> <p>④生態工学的な技術を含むランドスケープ分野について、事例解説や現地調査を通じて理解を深める。</p>					
学科の学修・教育目標との関係	自ら発見した問題を、自ら調べ、自ら考えて解決する能力を身に付けている。					
キーワード	ランドスケープ、造園、都市計画、環境、デザイン					
授業の概要	本授業の前半では、私たちの社会におけるランドスケープデザインの根源的な意義と可能性について考えることを主な目的とし、ランドスケープデザインの理論と実践の変遷、そして今日の社会課題に対するランドスケープデザインを通じた解決へのアプローチについて議論を展開していく。後半では国土全域を扱うランドスケープの中で、自然環境の保全、再生、創出の視点から、生態工学的な技術を含むランドスケープ分野の役割を示し、その課題解決へのアプローチについて議論を展開する。					
授業の計画	<p>第1回： シラバスの説明、ランドスケープ分野の成立とその背景</p> <p>第2回： 近代以前のランドスケープデザイン</p> <p>第3回： 近代及び現在のランドスケープデザイン</p> <p>第4回： 東京都心部でのランドスケープデザインフィールドワーク（歴史編）</p> <p>第5回： 東京都心部でのランドスケープデザインフィールドワーク（近代編）</p> <p>第6回： 東京都心部でのランドスケープデザインフィールドワーク（現代編）</p> <p>第7回： 前半課題のプレゼンテーションと講評</p> <p>第8回： 自然環境を含めた国土全域でのランドスケープ分野の役割</p> <p>第9回： 生態学的視点及びその応用技術とランドスケープ</p> <p>第10回： ランドスケープと生態工学の理論・技術と事例1</p> <p>第11回： ランドスケープと生態工学の理論・技術と事例2</p> <p>第12回： ランドスケープと生態工学の理論・技術と事例（環境評価）</p> <p>第13回： ランドスケープと生態工学の理論・技術と事例（環境創出）</p> <p>第14回： 生態工学を応用したランドスケープデザインのフィールドワーク（地形評価）</p> <p>第15回： 生態工学を応用したランドスケープデザインのフィールドワーク（植生評価）</p>					
受講条件・関連科目	<p>1. 受講条件：特になし</p> <p>2. 関連科目：特になし</p>					
授業方法	<p>3. 講義とフィールドワークを中心とする。</p> <p>4. 配布資料とスライドを主に用いて授業を行う。</p> <p>5. 前半と後半にレポート課題とプレゼンテーション課題がある。</p>					
テキスト・参考書	<p>6. 教科書：特に定めない。</p> <p>7. 参考書：武田史朗、山崎亮、長濱伸貴「テキスト ランドスケープデザインの歴史」学芸出版社 山本紀久「造園植栽術」彰国社 一般社団法人ランドスケープアーキテクト連盟「ランドスケープアーキテクトになる本Ⅰ・</p>					

	Ⅱ」マルモ出版 亀山章「生態工学」朝倉書店 亀山章、倉本 宣・日置 佳之「自然再生：生態工学的アプローチ」ソフトサイエンス社
成績評価	・レポート1 (30%)、レポート2 (30%)、プレゼンテーション (40%)
履修上の注意	・講義とレポートがリンクしているので、授業に出席し講義記録を取ることが必須となる。